

【CM リリース】

< 報道関係者各位 >

2026 年 4 月 17 日

Indeed Japan 株式会社

プロサッカー選手 堂安律さん出演 / Indeed 新 CM

ピッチの外から支えるプロフェッショナルたち“チーム堂安”に迫る

6 月のオランダ戦に向けて意気込み

「元チームメイトも多いけど、ピッチの上では友情はない
全力で勝ちにいきます」

新 TVCM 「堂安律は、ひとりじゃない。」 チーム堂安・全員篇、プロサッカー選手・堂安律さん篇を
2026 年 4 月 20 日（月）から全国で順次放送開始！



Indeed Japan 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：浅野 健、<https://jp.indeed.com> 以下 Indeed）が提供する、世界 No.1 求人サイト*「Indeed（インディード）」は、2026 年 4 月 20 日（月）よりプロサッカー選手堂安律さんが出演する新 TVCM 「堂安律は、ひとりじゃない。」 チーム堂安・全員篇、プロサッカー選手・堂安律さん篇を順次、全国で放送開始することをお知らせします。

今回の TVCM には、Indeed がメインスポンサーを務めるブンデスリーガの強豪クラブ、アイントラハト・フランクフルトに所属する堂安律さんに加え、チーム専属メディカルトレーナー、堂安律さんの専属シェフ、マネジメントといった、普段は表に出ることの少ないピッチの外にいるプロフェッショナルたちの仕事にも同時にフォーカスを当てています。それぞれが高い専門性を武器に、好きなこと・得意なことを仕事にしながらチームを支えている姿を、飾らない日常の延長線上にあるリアルな空気感とともに描きました。

Indeed は、ブランドコンセプトとして「いい未来は探せる」を掲げ、今後の自分の働き方や生き方を模索している人々に対し、皆様の自己実現を支えていくパートナーとして新しい働き方や生き方、成長の可能性を提供していきたいと考えています。本 CM では、サッカーというチームスポーツを通じて、ひとりではなく誰かと支え合いながら、それぞれが「いい未来」に向かって進んでいく姿を描き、多様なキャリアのあり方とその可能性を表現しました。選手だけでなく、その周囲で支える一人ひとりもまた、自らの意志でキャリアを選び、それぞれの道を歩んでいます。それぞれがつかんだ「いい未来」の姿をお届けします。

新 CM 概要

タイトル:「堂安律は、ひとりじゃない。」チーム堂安・全員篇 (15 秒)
「堂安律は、ひとりじゃない。」プロサッカー選手・堂安律さん篇 (30 秒)

放送開始日: 2026 年 4 月 20 日 (月) より順次

放送地域: 全国

特設サイト: <https://jp.indeed.com/cm/iimirai>

CM 本編映像:

「堂安律は、ひとりじゃない。」チーム堂安・全員篇 (15 秒) <https://youtu.be/i8EE0q0xwY8>

「堂安律は、ひとりじゃない。」プロサッカー選手・堂安律さん篇 (30 秒) <https://youtu.be/qzcGNQ1A3GY>

※「堂安律は、ひとりじゃない。」メディカルトレーナー・黒川孝一さん篇、専属シェフ・高見光さん篇、
マネジメント・杉本啓さん篇は、今後順次放映・公開を予定しております。

プレゼントキャンペーン:

第 1 弾として、5 月 4 日 (月) より Indeed 公式 TikTok アカウントにて、応募者を対象に堂安律選手の直筆サイン入りアイントラハット・フランクフルトのユニフォームや豪華景品が当たる「#堂安律は、ひとりじゃない。キャンペーン」を実施します。さらに、今後は堂安律選手へエールを送る第 2 弾キャンペーンの実施も予定しています。詳細については Indeed 公式 TikTok アカウントをご覧ください。

【第 1 弾】 #堂安律は、ひとりじゃない。 キャンペーン

応募方法:

- ① Indeed 公式 TikTok アカウント (@indeed_jp) をフォロー
- ② ドキュメンタリー映像 (投稿) にコメント
- ③ DM で指定キーワードを送信して、クイズに回答。

※指定キーワードのみ受付するシステムのため、対象外キーワード入力の場合はエラーメッセージが表示されます。

応募期間:

- ① メディカルトレーナー・黒川孝一さん篇 2026 年 5 月 4 日 (月) ~2026 年 5 月 17 日 (日)
- ② 専属シェフ・高見光さん篇 2026 年 5 月 18 日 (月) ~2026 年 5 月 31 日 (日)
- ③ マネジメント・杉本啓さん篇 2026 年 6 月 1 日 (月) ~2026 年 6 月 14 日 (日)

参加条件: 1 アカウントにつき、1 日 1 回ご応募可能

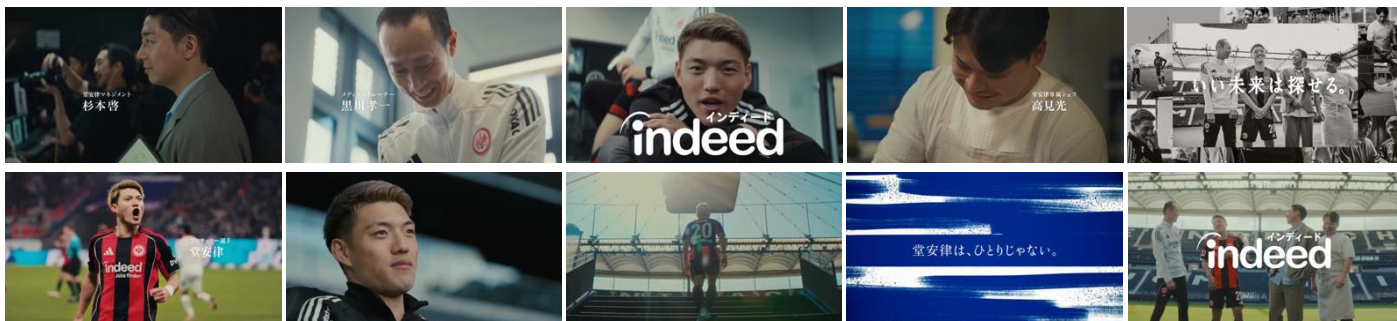
賞品・当選人数:

詳細は近日特設サイトで公開予定

Indeed 公式 TikTok アカウント: (https://www.tiktok.com/@indeed_japan)

CM ストーリー

堂安律さんをはじめ、チーム専属メディカルトレーナー、専属シェフ、マネジメントといったピッチの外から支えるプロフェッショナルたちが登場し、それぞれの仕事に向き合う日常の一コマを描いています。コンディショニングや食事管理、マネジメントなど、異なるフィールドで堂安さんを支える姿が映し出される中、「仕事さがしは Indeed♪」のフレーズを口ずさむシーンも。普段は見ることのできない、堂安さんとチーム専属メディカルトレーナー、専属シェフ、マネジメントの家族のような関係性で掛け合いをする姿にご注目ください。



CM 撮影現場レポート

「めっちゃプレッシャーかけるじゃん」仲の良さが垣間見えるチーム専属メディカルトレーナーとの掛け合い
堂安さんとチーム専属メディカルトレーナー黒川さんの撮影では、「頼みますよ黒さん、怪我したら黒さんのせいですから（笑）」と堂安さんが冗談を飛ばす場面も。それに対し黒川さんが「めっちゃプレッシャーかけるじゃん」と応じるなど、和やかなやり取りが続き、2人の信頼関係と仲の良さが垣間見える印象的なシーンとなりました。

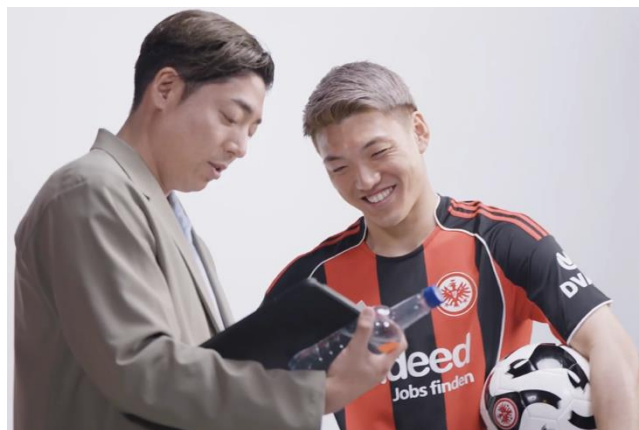
マネジメントとの軽妙なやり取りに現場もほっこり

マネジメント杉本さんとのシーンでは、堂安さんが髪型について冗談を交わし、思わず笑い合う場面も。さらに4人で腕を組むカットでは、堂安さん「黒さんおかしいって～（笑）」黒川さん「ちょっとふざけちゃった」杉本さん「ふざけないでください」といった軽妙な掛け合いが飛び交い、現場は終始笑いに包まれていました。4人横並びになってかっこいいキメポーズをするシーンでは、カット後に「どんなポーズしてた？」と互いに確認し合うなど、チームならではの自然な空気感も印象的でした。

「ただいま」「おかえり」日常を切り取った専属シェフとの温かな時間

専属シェフ高見さんとのシーンでは、「ただいま」「おかえり」といった自然な挨拶から撮影がスタート。高見さんから「今日は豚汁です。鯖もあります」に対し、堂安さん「おかわりももちろんありますよね？」といったやり取りや、「うまいっすねいつも通り」と堂安さんが食事をする姿など、まるで日常の一コマのような温かい空気が流れていました。会話に出ていた“おかわり”もしっかり行われるなど、撮影中ということを忘れてしまうほどのリアルな関係性が感じられるシーンに。その後、高見さんから「疲れてない？」と優しく声をかけられる場面も見られるなど、支える存在としての一面が垣間見えました。

本CMは、ドイツ・フランクフルトにあるアイントラハト・フランクフルトのトレーニング施設にて撮影を実施。普段から練習を行っているリアルな環境の中、日本語・ドイツ語・英語が飛び交う国際色豊かな撮影となりました。すべての撮影を終えると、「チャオチャオ！」と声を掛け合いながら笑顔で締めくくり、最後まで和やかでチームワークの良さが感じられる撮影現場となりました。



インタビュー（一部抜粋）

◆堂安律さん

Q. CM撮影を終えて、改めてチーム専属メディカルトレーナーの黒川孝一さん、専属シェフ高見光さん、マネジメント杉本啓さんは堂安さんにとってどんな存在ですか？

メディカルトレーナー・黒川孝一さんに対して：

アイントラハト・フランクフルトで出会って以来、プライベートでもコミュニケーションをとることが多く、彼の存在によって早くチームに馴染むことができたと感じています。もちろん、マッサージなど身体のケアの面でも支えてもらっていますが、それ以上に心のケアという意味でも大きな存在です。移籍当初はまだ他の選手と関係性も築けていない中で、チームで10年ほど働いている彼が、日本語でいろいろと教えてくれたことがとても心強かったです。彼の能力があってこそ、自分自身も不安なくピッチに立てていると思いますし、日本人ならではの繊細で職人的な技術に本当に助けられています。

また、黒川さんとはとても分かり合えているというか、能力面はもちろんですが、それ以上に重要なのは人間関係、そしてそこに表れる信頼関係だと思っているので、お互いにリスペクトし合いながら、チームのためにプレーできていると感じています。

専属シェフ・高見光さんに対して：

5年間一緒に過ごしてきた、選手とプライベートシェフという関係を越えた、家族のような日々を過ごしていると思います。僕の良い試合も悪い試合もずっと観てきているので、「堂安律」という人間をよく理解してくれている存在だと思います。高見さんと一緒に仕事を始めてから怪我もなく、特に筋肉系の怪我は栄養面の影響も大きいと思うので、それがゼロであるのは間違いなく彼のおかげだと感じています。とても向上心のある方で、僕が試合で離れている間も、レストランでさまざまな料理の文化に触れたり、実際に働かせてもらったりと、常に学ぼうとする意識が高いんです。成長しようという強い姿勢があるからこそ、切磋琢磨できる関係だと感じていますし、そういう部分をととてもリスペクトしています。

マネジメント・杉本啓さんに対して：

17歳の頃から一緒に仕事をしていて、二人三脚でここまでやってきました。一緒に働くこと自体が楽しくて、あまり“仕事をしている”という感覚はないですね。僕のことをとてもよく理解してくれている存在だと思いますし、“本当の堂安律の良さを世の中に伝えたい”という思いも、誰よりも強いんじゃないかと思います。実際に、その魅力をどう届けていくかを熱く語ってくれることも多いです。アスリートという立場上、すべてを皆さんに見せるのは難しい部分もありますが、彼がいることで、少しでも自分の魅力を世の中に伝える機会を作ってくれていると感じていますし、とても感謝しています。

Q.国際大会に向けて、実は密かに実践していることがあれば教えてください。

サッカーのことしか考えて生活してないので…、朝起きて白湯とジンジャーティーを飲んで、練習に行って、ジムでトレーニングをして帰って、シェフのランチを食べて昼寝して、その後リカバリーの時間を取って、時には治療も受けて…、それでもう19時になっているので。その後夕食をとって、21時からはどこかのリーグの試合を観て、23時頃に寝るという生活です。サッカー以外やることがないですね。本当に。

Q.勝負メシはありますか？

ご飯はシェフに完全に任せているんで、シェフに聞いたらわかるかもですね。最近特に好きなご飯は、バターライスの上に鰻をのせて食べる「鰻バターライス」です。BBQをするときの締めによく食べるんですが、これが本当におすすめです。

Q.サッカーに限らず、今年様々な国際大会が行われていますが、同じ日の丸を背負う立場として刺激を受けた選手や競技はありますか？

他のスポーツも結構好きで、ボクシングも観ますし、野球もよく観ます。巨人のファンなんですけど、昔から“一番強いチームが好き”という、すごく単純な子どもだったんですよ。当時は巨人が一番強くて、サッカーでいえばFCバルセロナが好きでした。そういう意味では、当時一番強かったチームをきっかけに、今でも応援し続けているクラブや球団が多いですね。

Q. かつての戦いの拠点でもあるオランダと世界の舞台で対戦すると思いますが、どのような思いで臨まれますか？

元チームメイトも多いですが、ピッチの上では友情はないと思っています。全力で勝ちにいきます。

Q. PSV アイントホーフェン時代のチームメイトであるオランダ代表のデンゼル・ドゥンフリースとの対戦についてどう思っていますか？

彼とは同じ右サイドをプレーしていたので、非常に仲のいいメンバーの一人でした。今でも半年に一度くらい連絡を取り合っているんで、再会できるのはすごく楽しみです。

Q.堂安さんが思い描く「いい未来」について教えてください。

僕にとっての「いい未来」は、達成感を味わえた瞬間だと思っています。それが大きな目標でも、小さな目標でもよくて、自分で決めた目標を達成したときの達成感こそが、人が感じる幸せや幸福度につながるものだと思います。小さな目標を積み重ねて達成していくことが、やがて大きな夢に繋がっていくと思うので、小さなことでも自分なりの目標を見つけることが、「いい未来」に近づくための一番の近道なんじゃないかと思います。

◆チーム専属メディカルトレーナー 黒川孝一さん

Q.堂安さんの印象について教えてください。

周りのスタッフや選手に対してとにかくフラットでオープンマインド。明るくてポジティブなメンタリティを持った青年だと思います。ネガティブな発言はなく、常に前向きでうまくいく方向へ挑戦し続けている姿に、僕自身も学ばされることが多いです。

Q.堂安さんとの関係性について教えてください。

ドイツのチームに所属する同じ日本人として、サッカーのことだけでなく、プライベートなことや身の回りの些細なことまで日頃からよく話しをしています。メンタル面の悩みにも一緒に向き合い、分かち合うことも自分の役割だと考えているので、そうした部分で少しでも力になれていたら嬉しいです。

Q.試合を観ている時は、どのようなことを考えていますか？

まず一番に思うのは、怪我なく無事に帰ってきてほしいということです。もちろん、良いパフォーマンスを発揮してチームの勝利に貢献できたときは最高ですが、何よりも大切なのは、怪我なく試合を終えることだと思っています。

Q. 堂安さんの身体については、プロの目で見てどう感じますか？

彼は非常に高い回復力を持っています。怪我をしにくい丈夫な身体に加え、治癒のスピードが早い。トップレベルでチャンスを掴むために、本当に恵まれた素晴らしい才能です。レベルの高い環境でプレーする場合、怪我や不調が多いと100%のパフォーマンスを発揮できず悔しい思いをすることになりますからね。

Q.身体が丈夫であることを話した時の、堂安さんの反応について教えてください。

笑顔で「アハハ、そうですね」といった感じで、「僕は怪我しないんで」と言ってます。やっぱりポジティブです。とはいえ、当然ながら彼も他の選手と同じ人間ですから痛みを抱えたり筋肉痛になることだってあります。丈夫な身体という才能に恵まれてはいますが、何が起るかわからないのが勝負の世界。彼の治癒力がより高まるようなケアを、日頃から意識して行っています。

Q.選手とのコミュニケーションで大切にしていることを教えてください。

常に真面目に接するだけでなく、時には崩してジョークを言ったり、いじられたりすることで信頼関係を築くことを大切にしています。そうすることで、普段は選手が口にしないような細かな情報も自然と入ってくることもあり、それが仕事に活きる場面も多いです。僕たちは選手に触れて治療を行う分距離が近いため、選手が自分の内面の気持ちや悩み、他のスタッフには言わないようなことをふと話してくれることがあります。そうしたコミュニケーションが問題解決のヒントになったり、チームの雰囲気をよくするための材料になることもあるので、メディカルチーム全員の共通認識として、堅苦しくなりすぎない雰囲気づくりを心がけています。

Q.今後の展望について教えてください。

これまで10年以上積み上げてきた経験を活かし、これからも選手に寄り添いながら、治療やケアを続けていきたいという気持ちが一番強いです。レベルの高い選手やチームの輪の中で、選手たちの成功を支える存在になったら嬉しいですね。将来日本に戻ることがあれば、この経験を生かし、日本サッカー界に少しでも貢献できたらと思っています。何かできることがあれば、積極的に飛び込んでいきたいです。

◆専属シェフ 高見光さん

Q.堂安さんとの出会いのきっかけを教えてください。

知人からの紹介です。2019年頃、スペインを一人旅していた時に「有名選手にばったり会えたら、シェフを探していませんか？って声をかけようかな」なんて漠然と考えていたこともあったのですが、結局会えずじまいで（笑）。その後、帰国して大阪を旅行していた時に、たまたま出会った料理人の方が堂安選手と繋がっていて。「堂安選手がシェフを探してるんだけど、やらないか？」と初対面で言われたんです。海外にまた住みたいという思いもあり、迷いはなく即決でぜひやりたいと返事をしました。

Q.実際に近くで働いてみて、堂安さんの印象はいかがですか？

メディアでの強気な発言から「厳しい人」というイメージを持っていましたが、実際はとても物腰が柔らかくて優しい、少年のような人です。

Q.堂安さんのお気に入りの料理はありますか？

僕の麻婆豆腐が大好きだと言ってくれています。試合終わりなど、区切りのいい節目にはご褒美として作ったりしますね。

Q.仕事をする上での「信念」や大切にしていることはありますか？

一番は「律の邪魔をしない」ことです。ピッチで頑張るのは彼自身。僕は彼が一人でいたい時やリラックスしたい時の空気を汲み取り、陰で環境を整える「空気」のような存在でありたいと思っています。また、「たくさんの人に幸せになってほしい」という思いがあります。しかし、通常のレストランの料理人とは違って、直接料理を届けることはできません。それでも、毎日僕の料理を食べている律が活躍することによって、感動したり幸せになったりしてくれるファンの方々がいます。だからこそ、その先にいる人たちまで見据えて料理を作るようにしています。

Q.専属シェフとは、具体的にどのようなお仕事なのでしょうか？

基本的には堂安選手の自宅キッチンが僕の職場です。毎日、彼の昼食と夕食を作り、彼の体調や目標に合わせて献立を調整しています。僕は元々料理人からキャリアをスタートしたので、栄養学を考慮しつつも、「とにかく美味しい料理を作る」ということに重きを置いています。一般的なレストランのシェフとの大きな違いは、「選手のパフォーマンス」だけを考えて料理にフルコミットできるという点です。塩、油、スパイスといった調味料一つから最高のものを選び、時間も手間も惜しみなく注げる、料理人としてこの上なく贅沢な環境に身を置いていると感じます

Q.サッカー選手ならではの食事の大切さを教えてください。

サッカー選手は週に1~2回試合があるため、その試合にコンディションのピークを持っていけるよう心がけています。試合前には糖質を増やし、食物繊維や脂質の多い食事は控えるなど、細かく意識して調整していて、律の場合は、体重をベースにコンディションを管理しています。ベストな状態を基準に、増えたら減らし、減ったら増やすといった調整を行っています。

◆マネジメント 杉本啓さん

Q.堂安さんの第一印象はいかがでしたか？

「関西の男の子だな！」という印象でした。初めて会った時は、大阪でコーヒーを一緒に飲みました。海外に出たい、というすごく強い意志を持っていると感じました。僕も高校、大学を海外で過ごしていたので、英語の勉強の仕方や「海外ってどうなの？」「SNS投稿はどうすればいい？」など、堂安選手の方からすごく興味を持って質問してくれました。当時僕はまだ会社員でしたから、単純に友人として、英語の勉強の仕方や SNS 投稿のやり方をサポートしていたんです。今思えば、それが彼とのマネジメントの仕事の起源かなと思います。

Q.堂安さんのマネジメントをしようと思ったタイミング、きっかけについて教えてください。

なぜ彼に僕の人生を賭けてみようと思ったのか、やっぱり「目が良かった」ですね。強かったし、魅力的だった。この人間にはいろんなものを引き寄せる力があると確信できたのが、僕がすべての時間をかけて、やれることは全部やりたいと思えた理由かもしれません。

Q.堂安さんとのやり取りの中で意識していることを教えてください。

堂安選手本人にはサッカーに集中してもらおうようにしています。そして、彼も僕も本当にいいと思える仕事を一緒にやることで「応援してもらっている、自分の影響力を必要としてくれる人がいる」と彼が感じられれば、それがピッチでも後押しになるはずだと思っています。堂安選手から学んでいる姿勢は「自分に矢印を向ける」ことです。サッカーは監督や相手がいて、不確定な要素が多いスポーツです。そこで人のせいにならず「自分がやるしかないんだ」という強い想いを持つ彼の強さには僕も学ばせてもらっています。

Q.このお仕事を志した原点を教えてください。

元々はサッカーのプロになりたいかったです。小学校の時は、人よりちょっと上手くて、当時はいけるのかな？って自分では思っていたんです。当時はデビッド・ベッカムにすごい憧れていて...でも、中学校に上がってクラブチームに入ったらめっちゃめっちゃうまい選手ばかりでした。その時「無理だな、自分は井の中の蛙だったな。」と気づきました。それが中学2年生の時です。でも、トップ選手たちの近くにいられるような仕事は何かないのか？と考えた時、選手と二人三脚で高みを目指せるアスリートマネジメントという仕事があることを知ることができました。自分にはサッカーにおいて努力をし続ける才能が足りない。けれど、圧倒的な努力が継続できる人たちの隣で、一緒に同じ景色を見られる立場ってというのはすごい夢があるなと思って。そう考えると、アスリートを支えているというよりは、やっぱり「その景色に連れて行ってもらえる」感覚の方が近いかもしれませんね。

Q.アスリートマネジメントとは、具体的にどのようなお仕事なのでしょうか？

所属アスリート達が出演するメディアやスポンサー企業との調整や現場での立ち会いなど、窓口業務もあります。僕は自分を「プロデューサー」だと意識して仕事していて、アスリートの価値と一緒に作っていくところに重きを置いています。調子が良い時もあれば、そうじゃない時もある。必ずこちらが狙った通りに活躍できるわけではありません。そんな中で僕が常に心がけているのは、すべての選手を「多くの方に応援され、期待される存在にしていくこと」です。マネジメントは選手に技術的なアドバイスはできません。でも、選手がいろんな人に応援してもらっていることが、きっと彼らのエネルギーになっていくと信じています。だから、堂安選手のマネジメントとして僕ができる最高の仕事は「堂安律というアスリートの応援団」を作ることなのかもしれません。

Q.今後の展望や、杉本さんが思い描く「いい未来」について教えてください。

トップアスリートになった人たちに、評価や見返りがあるような世界になってほしいです。僕は正直、アスリートに「狂気」を感じます（笑）。普通に勉強して就職するのが一番安全で安心なのに、何の約束もされていない競技でプロに突っ込んでいく。そのいい意味でネジが外れている人たちが、企業のサポート、国の支援など、何かしらの見返りや注目を得るのは当然だと思っていますし、そういう世界にしていきたいです。何かを達成できた時に戻ってくるものは、ちょっと言葉では表せません。国際大会で決定的なゴールを決めた選手が、僕がマネジメントしている選手にいますよ？（笑）そういう普通の人を経験できない瞬間を経験できることが、この仕事のやりがいであり生きがいです。「あの感覚をもう一回味わいたい」「またあの景色を見たい」みんなが望む未来に、僕の仕事がちょっとでも影響しているんだったら、もうそれ以上何もいらない。そういう仕事かなと思います。

プロフィール



堂安 律 / Ritsu Doan プロサッカー選手
1998年6月16日生まれ 兵庫県尼崎市出身
ドイツ ブンデスリーガ1部 アイントラハト・フランクフルト所属
サッカー日本代表 背番号10

- ・16歳でガンバ大阪クラブ史上最年少でプロデビュー
- ・FCフローニンゲン（オランダ）、PSV（オランダ）、ビーレフェルト（ドイツ）、フライブルク（ドイツ）を経て、2025年8月にアイントラハト・フランクフルトへ完全移籍
- ・2021年の東京五輪では背番号10
- ・2022年カタールW杯でドイツとスペインから2ゴール
- ・2023年6月からサッカー日本代表で背番号10を背負う
- ・地元・尼崎で実兄の憂とともに、未来の日本代表10番を育成するフットボールスクール「NEXT10 FOOTBALL LAB」を運営中

Indeed（インディード）について

Indeed は、最も多くの人々が仕事を見つけている世界 No.1 求人サイト（Comscore 2025 年 3 月総訪問数）です。Indeed には、6 億 1,000 万件の求職者プロフィールがあり、28 言語で 60 か国以上の人々が Indeed で仕事を探したり、履歴書を投稿したり、企業を調べたりしています。350 万以上の雇用主が Indeed を利用して新しい従業員を見つけ、採用しています。

詳細は <https://jp.indeed.com> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先
<https://jp.indeed.com/news/support/form>